令和５年度

学校と地域の連携・協働を振り返る

栄小学校コミュニティスクール小学校部会

活動のねらい

栄小学校は全校児童４３名と児童数の減少が進み，児童が少ない中でよりよい教育を成立させていくことが課題になっています。村では小中統合問題にかかわり地域住民の意見を聞くワークショップ「みんなで学校を創ろう」を随時開催しており，そこでは，少人数は一人一人に手厚い教育がなされるよさがある一方，人間関係が固定化している，多様な見方や考え方に触れにくいといった心配の声が度々聞かれます。

栄小学校は村で唯一の小学校であり，地域住民の期待は大きく，我が村の学校という意識が強く感じられます。そのため，地域住民の助力は得やすく，学校と地域の連携・協働を進めていくにはよい環境といえます。ただ，「学校に協力したいがどうしたらいいかわからない」といった声もあり，地域の力を学校にどう取り込んでいくかが課題となっています。

児童数が少ないということは，視点を変えれば，フットワーク軽く動きやすいとの機動力や，施設面で外部を受け入れやすいことにつながり，地域と学校の連携・協働において活かしていきたい側面も見えてきます。

諸条件を効果的に位置づけていくことで，児童数が少ない中でも，地域の力を取り込むことによって先述の「人数が少ない中で人間関係が固定化している，多様な見方や考え方に触れにくい」といった課題は解決の方向が見えてくるのではないでしょうか。児童数は４３人でも，校外に目を向ければ村民の数は１，７００人程で，児童が出会い，かかわれる貴重な人材がいます。このかかわりは，昨今その実現が求められる「協働的な学び」につながるもので，多様な関係の中で学ぶことはコミュニケーション能力や他者と連携する力を育むことにつながると考えられます。

ここでは，地域住民の期待がある一方，児童数減との課題を抱える栄小学校において，「地域とつながり，多様なかかわりを生み出すにはどうしたらよいか」との問いに向けた学校と地域の連携・協働の実践を振り返ります。

活動の経過と内容

１　コミュニティスクールの活動

栄村コミュニティスクール小学校部会では，メンバーによる熟議により目標，理念を共有し，グランドデザイン作成，交流スペース設置といった環境面を整え諸活動推進につなぎました。グランドデザイン等の情報は地域に公開し，コミュニティスクールの運営指針，活動の見通しを広く共有することを心がけました。また，研修会を開催し，学校と地域をつなぐ学びの場としました。

（１）村ＣＳ小学校部会における熟議

栄村ではコミュニティスクールに小学校部会，中学校部会がそれぞれ設置され，児童・生徒の動きやニーズに応じた活動を推進しています。ここでは栄村コミュニティスクール（ＣＳ）小学校部会の活動を振り返ります。

組織の連携・協働を成立させるには，個人の違いを超えて，目標や理念を共有することが不可欠と思われます。年度当初，地域住民，学校職員で構成される村ＣＳ小学校部会では，熟議により目標，理念の共有を図りました。

「栄小の子どもたちへの願い」をテーマに，子どもの成長や学校と地域の関係性についてメンバーで協議をしました。部会メンバーそれぞれの思いを出し合ったところ，話題は地域のよさや課題，これまでのコミュニティスクールの活動等多岐にわたり，最終的には村の子どもたちへの願いに収束し，「栄村のよさを見つけてほしい」「栄村の自然の中で思い切り活動してほしい」「栄村の人とつながって学んでほしい」との共通の願いが確認されました。

熟議の末，部会メンバー全員で村ＣＳの活動理念を生み出したことは大きな成果でした。

（２）村ＣＳ小学校部会の形づくり

先述の第１回村ＣＳ小学校部会を終え，活動へ向けた環境づくりを進めました。運営計画の策定とグランドデザインの作成，活動スペースの設置です。

運営計画には，活動方針，主な活動，推進日程等を記載し，部会の大きな枠を示しました。グランドデザインは運営計画をより焦点化し，活動目標と年間の活動の見通しが一目でわかるようにしました。このグランドデザインは地域に配布し，共有を図りました。

活動拠点としては，校舎内に「コミュニティスペース」を設置しました。コミュニティスペースにはベンチを置き，児童と地域住民の憩いの場にしようと考えました。後述する花壇づくりの活動の後など，休憩しながら交流を深める児童と地域住民の姿が見られました。また，学校敷地内の林の下草を刈り，野外活動等ができるようにしました。この場所は児童により「森の広場」と名づけられ，１・２年生は秋の交流会で地域住民を案内し，広場内のおすすめの場所を紹介しました。

このように，児童と地域住民のかかわりを生む環境づくりを進めました。

（３）学校開放土曜参観「午後の研修会」

６月２４日学校開放土曜参観日の午後に，学校と地域のつながりを深める研修会，「午後の研修会」を開催しました。学校，ＰＴＡ，コミュニティスクール三者共催の研修会です。

午前中は，多くの保護者，地域の方に児童の学校生活や学習の様子を見てもらい，午後に講演会，学校の教育活動紹介，ワークショップから成る研修会を開催しました。講演会では，長野大学・早坂淳教授の講演から学校と地域の協働の必要性について学び，学校の教育活動の紹介では，グランドデザイン，特色ある教育活動，コミュニティスクールの活動について発表がされました。ワークショップでは，栄村の子どもの育ちへの願いと我々ができることについて，小グループに分かれてディスカッションをしました。地域住民として中学生の参加もあり，貴重な意見を聞くことができました。

午後の研修会は保護者，地域住民，教職員が一つの場で学び合い，意見や情報を共有する機会となり，学校と地域の一体感の高まりにつながりました。

【午後の研修会】

以上見てきたように，地域と学校との接点となる村ＣＳ小学校部会では，熟議によりメンバーの願い，思いを汲み上げ，理念や目標を共有しました。これは協力する，依頼するとの関係を超えて，学校と地域が対等・並立の関係で活動していく第一歩であり，めざすところである連携・協働へとつながるものでした。また，学校開放参観日の「午後の研修会」は，学校と村ＣＳ小学校部会でめざす連携・協働を広く保護者や地域へ広げる機会になりました。

グランドデザイン作成，コミュニティスペース設置や交流ができる森づくりなど活動を具体化，可視化していくことで，環境づくりも進めることができました。

２　共に学ぶ，共に遊ぶ

村ＣＳ小学校部会では，児童と共に授業で学んだり，休み時間に遊んだりする地域住民を募り，「いっしょに学ぼう」「いっしょに遊ぼう」の活動を実施しました。これは地域の力を学校に取り込み，児童が地域住民と共に活動することで，多様なかかわりを生み出そうとしたものです。

（１）「いっしょに学ぼう」

①「いっしょに学ぼう」について

昨年度から始めた「いっしょに学ぼう」では，英語，プログラミング，習字，ボッチャで児童と地域住民共同の授業を行いました。そこで明らかになったのが，コミュニケーションの要素が含まれる授業で互いがより充実感を得ていることでした。英語のインタビュー活動やゲーム，ボッチャでチームごと作戦を立て応援し合う活動にコミュニケーションの喜びを感じる様子がありました。

英語では，「楽しい時間を過ごすことができました。６年生の皆さんの学びの姿も素晴らしく，地域のおばちゃんを受け入れてくださったことに感謝します。またのご縁を（後略）」「２回とも知らなかった単語を理解することができました（ナスが eggplant とか）。児童の皆さんと交流しながらの授業がとても楽しく，時間が短く感じられました。（中略）また機会がありましたら参加させてください」といった地域住民の声，児童からは，「いつもはクラスのみんなとやっているけど，地域の方といっしょにやってとても楽しかった」「地域の人とゲームなどいろいろできてよかった。またできたらいいなと思う」といった感想がありました。互いにかかわりながら，学ぶことを楽しむ児童と地域住民の姿があり，活動の継続を期待する声も多くありました。ボッチャにおいても，また共に活動したいという声は多く，今年度は英語，ボッチャに特化し，クラブとして発足させるに至りました。

昨年度から始まった児童と地域住民共同の花壇づくりを加え，村ＣＳ小学校部会の「いっしょに学ぼう」

は，英語，ボッチャ，花壇づくりの三つの活動でスタートしました。

②「いっしょに学ぼう」打合せ会，始めの会

花壇づくり，英語，ボッチャについて地域住民に参加者を募ったところ，花壇１２名，英語，ボッチャはそれぞれ７名の応募がありました。６月には応募者による事前打合せ会を開催し，参加の願いや活動の目的の共有を図りました。

７月には「いっしょに学ぼう始めの会」を開催しました。全校児童，コミュニティスクール役員が一堂に会し，活動への願いを伝え合いました。

今年度の活動について，コミュニティスクール役員からは，「地域の方といっしょにやれば仲間が増える」「何十年ぶりかの英語の勉強，みなさんとやるのが楽しみ」「ボッチャはやってみると難しい。みなさんといっしょに上達したい」そんな活動への願いが語られました。児童からは，「また地域の人といっしょに花壇をつくるのが楽しみ」「英語のゲームが楽しかった。また地域の人と英語を勉強したい」そんな言葉が聞かれました。

いっしょに学ぼう打合せ会や始めの会は，児童，地域住民が活動への願い共有し，主体的な活動への意識を醸成する機会になりました。

③花壇クラブの活動

花壇づくりは，１・２年生と花壇クラブ員により行われました。

【花壇づくりの活動】

６月，学校前花壇において花壇クラブ員と児童とで花の苗植えを行い，交流を深める機会としました。初めに２年生から花壇づくりへの願いの発表があり，グループごとに自己紹介をしてから活動を始めました。声をかけあって，苗を渡し合って植え付けを行う児童と花壇クラブ員の姿があり，かかわりが深まる温かい時間になりました。

その後の活動として，夏期休業前後の草取り，フラワーアレンジメント作り，花壇の片付けと交流会を行いました。

１１月には，花壇づくりの活動を振り返り，思い出を形にしようとアルバム作りを行いました。児童とクラブ員がかかわり，互いへの愛着を深めるアルバム作りとなりました。

１・２年児童と地域有志の花壇クラブ員の花壇づくりや交流活動は，双方がかかわる喜びを得るものになりました。

④英語クラブの活動

３～６年生の外国語活動，外国語に地域有志の英語クラブ員７名が入って授業が行われました。年１２回の合同授業です。ここでは５年生の授業の様子を振り返ります。

【いっしょに学ぼう・英語】

１０月は，５年生と英語クラブ員の外国語の授業を行いました。授業は互いの自己紹介から始め，「My name is ○○.I like □□. Thank you.」と名前や好きなことを伝え合いました。授業の主たる活動は，「Can you ～？Yes,I can/No,I can’t.」のコミュニケーションでした。まず，料理，ダンス，ギター，バレーボールができるか予想し，ALT に尋ねました。その後は，児童，英語クラブ員が互いに四つのことができるかどうか英語で尋ね合いました。「料理は何ができるの？」「味噌汁を作れる」「すごいね」そんなやり取りもあり，互いのことを深く知る様子がありました。

互いのことを知りコミュニケーションを楽しむ，そんな５年生と英語クラブ員の「いっしょに学ぼう」になりました。

以下はいっしょに学ぼう・英語の６年児童と地域住民の感想です。

- 英語を地域のみなさんと学べて，いろいろな人と話せてよかったです。発表し合うとき教えてもらったりしてたくさん話せたし，楽しくできてよかったです。６年生とは違う意見もあったりして考えが深められました。（６年児童）
- 大変お世話になりました。子どもたちと英語の勉強をいっしょにでき，とても楽しい時間を過ごすことができました。時間があっという間に過ぎてしまい，もっとできたらなぁといつも思います。また参加したいと思います。（地域住民）

外国語の学習では，コミュニケーションの喜びや楽しさを味わうことが肝要といわれます。そういった意味において，英語を学ぶことで児童と地域住民が互いのことを知り，かかわり合って学ぶ楽しさを味わう活動は意義深いと思われます。多様なかかわりの中で学ぶ英語授業の様子がありました。

⑤ボッチャクラブの活動

【ボッチャの授業】

いっしょに学ぼうのボッチャは，全学年の体育の授業にボッチャクラブ員が入って行われました。特筆したいのは，地域の福祉グループ「にじいろ」さんと児童による授業が行われたことです。ボッチャのよさは，老若男女，体力差にかかわらずゲームを楽しめるところにあります。今回のボッチャ授業ではそのボッチャのよさが活き，参加者が共に楽しむ授業となりました。

多様な人々とのかかわりが生まれるボッチャの授業となりました。

（２）「いっしょに遊ぼう」

①「いっしょに遊ぼう」について

「いっしょに学ぼう」では，同じ学習者・活動者として，対等・並列な関係でかかわる児童と地域住民の姿が生まれました。児童は多様なかかわりの中で学び，地域住民には児童との学びや活動を楽しむ姿が見られました。これを自由な遊びに広げ，学校の休み時間を児童と地域住民が共に遊び，さらにかかわりを深める交流の機会にしたいと考え，地域に「いっしょに遊ぼう」で児童と交流する会員を募りました。日課の工夫をして３５分間の時間を創出し，９月から月１回，年間で６回の開催をしました。

開催に先立ち，９月初めには「いっしょに遊ぼう始めの会」を実施しました。全校児童，地域代表が一堂に会し，活動への願いを伝え合いました。初めに，児童，地域の希望から，どんな遊びが設定されたか確かめました。コマ・けん玉，ハンドベース，トランプ，スケートボードなど様々な遊びがあり，紹介により期待を膨らめる児童の様子がありました。地域代表からは，ジャンプや回転など，スケートボードの技を披露してもらい，「楽しくスケートボードをやりましょう」そんな声が児童へかけられました。児童からは，「スケートボードをやってみたくなった」「いろいろな遊びを地域の人と楽しみたい」といった感想が聞かれました。

「いっしょに遊ぼう」は昨年度に引き続いての開催です。今年度も「ありがとう」「楽しかった」「またやりたい」そんな言葉が交わされる活動になることを願いまし。

②「いっしょに遊ぼう」の活動

ここでは第１回，第２回の様子を振り返ります。

第１回のいっしょに遊ぼうを９月終わりに開催しました。「コマ・けん玉」「ハンドベース」「スケートボード」「トランプ」「折り紙」「ボルダリング」「お絵かき」から遊びを選択し，共に楽しむ児童と地域住民の姿が見られました。「いっぱい遊んで汗をかいた」とボルダリングで遊んだ児童の声が聞かれました。終了後は，「楽しかった」と，楽しく遊び，互いにかかわり合う児童と地域住民の姿が見られました。

【いっしょに遊ぼう】

第２回は１０月に開催しました。スケートボードは，地域の愛好家の厚意で，希望児童全員の用具を用意してもらいました。「初めてスケートボードをやって，教えてもらったら曲がれるようになった」「結構乗れるようになってきて楽しい」「いろいろな乗り方や技があっておもしろい」児童の声から，スケートボードを楽しむ様子がわかります。地域の愛好家には，「スケートボードを楽しんで好きになってほしい」との願いから児童と遊んでもらいました。

楽しく遊び，つながる児童と地域住民の姿があります。「いっしょに遊ぼう」では，共に楽しい時間を過ごしかかわりを深める児童と地域住民の姿が見られました。

（３）地域へ活動の発信

【英語劇の発表】

今年度，英語クラブ員と有志児童は，第４５回栄村総合文化祭において英語劇「ピーチ・ボーイ」を発表し

ました。クラブ員と児童が，英語学習の成果を披露したい，活動を村の人に発信したいと願い，英語劇の発表に至りました。「Once upon a time, there lived an old man and an old woman.」から始まる英語劇では，クラブ員と児童が，桃太郎，オニ，イヌ，サル，キジ，おじいさん，おばあさん，ナレーターを分担し演じました。会場の村文化会館ステージで英語を使って演じた劇は，観客に好評で，たくさんの拍手をもらいました。

英語劇では，楽しく，笑顔で演じる児童とクラブ員の姿がありました。児童と地域住民のかかわりは一層深まり，英語劇の発表は地域へそのかかわりを発信する機会になりました。

以上見てきたように，小規模校において懸念される人間関係の固定化，多様な見方・考え方に触れにくいといった課題解決のために，地域の力を学校に取り込み，地域住民に同じ学習者・活動者として児童とかかわってもらいました。児童には多様なかかわりの中での学びや活動が生まれ，地域住民には児童との学習や活動を楽しみながら，学校教育への参画の意識や生涯学習への関心を高める様子が見られました。

３　ふるさと学習における地域との連携・協働

学校では地域に学び，地域に還すふるさと学習に力を入れて取り組んでいます。学校と地域の協働・連携について，村ＣＳ小学校部会の活動に加え，ふるさと学習では，児童の主体的な活動の中で地域の人とつながり，地域に発信する児童の姿が生まれました。

（１）３・４年生「ひまわりプロジェクト」

「栄村の観光スポットにしたい」「村の人を元気にしたい」「ひまわりを見て，笑顔があふれるようにしたい」３・４年児童は，ひまわりを咲かせる活動にこんな願いを持ちました。「お年寄りの多い大久保地区の休耕田をひまわりでいっぱいにして，通行人たちを元気にしたい」，これは地域住民の阿部さんの願いです。

児童と地域住民の願いが一致し，協働による休耕田を利用したひまわり栽培に取り組みました。総合的な学習の時間の活動です。地域住民との協働による取組は，学校と地域の結びつきを深め，児童の学びと成長に大きな価値をもたらすことが期待できます。

新潟県津南町のひまわり畑見学を経て，３・４年生は６月，大久保地区において，地域住民と協力して休耕田にひまわりの種をまきました。前輪を回すことで，種を少しずつ落としていく仕組みの播種機を用い，種が落ちているか確かめながら慎重に作業を進めました。少しずつコツをつかみ，地域住民のサポートもあり，無事に種まきをすることができました。

【ひまわりの種まき】

７月には，３・４年生の担当児童４名が，ひまわり畑を多くの人にＰＲしようと，手作りのチラシ，ポスターを手に村内施設を回りました。訪れたのは，道の駅，駅，商店。チラシを置いてもらうことやポスターを貼ってもらうことを依頼しました。チラシやポスターには，児童が考案したオリジナルキャラクターが描かれ，「開花予定　８月下旬～９月上旬　ぜひ，見に来てください」とメッセージが添えられました。施設を訪れていた地域住民らには，直接チラシを手渡したり，ポスターを紹介したりしてＰＲ活動をしました。「ぜひ見に行きますね」との言葉をもらって，満足そうな児童たちでした。児童は，「ＰＲするのは楽しかった。ひまわり畑を見に来てもらえそう」「花が咲いたらたくさんの人に見に来てもらい，喜んでもらえたらうれしい」と話していました。地域に自分たちの活動を知らせ，つながりをつくろうとすることができました。

夏休み明け初日，３・４年児童は村内大久保地区に，育ててきたひまわりの開花を観察に行きました。自分たちの背丈より高く生長したひまわりを見て児童は大喜びでした。

１２月には共にひまわりプロジェクトに取り組んだ地域住民の阿部さんを学校に招待し，感謝の会を開きました。阿部さんには児童から記念のプレゼントやメッセージが送られました。阿部さんからは，「皆さんのおかげで，お年寄りが多い大久保地区が，ひまわりが咲くことで元気になりました」「観光協会には，たくさんのひまわりの感想の声が届きました」といった言葉をもらい，「大きなひまわりを咲かせて，地域を元気，笑顔にしたい」という児童の願いが，多くの人に届いたことが確かめられました。

阿部さんからも共に活動した記念として大久保地区のお米をいただきました。児童，阿部さんが互いに感謝を伝え合う活動のまとめになりました。

児童は活動への願いを持ち，地域住民とかかわりながら，ひまわりプロジェクトを進めてきました。努力の結果，ひまわりは大輪の花を咲かせ，地域住民を元気づけました。地域の人と協力して活動し，ふるさと栄村の一員であることの自覚を高めた児童の姿があります。

以上のように，３・４年生のふるさと学習では，主体的な活動の中，地域住民との連携・協働で願いの実現を追い求めながら，地域とかかわりを深める児童の姿がありました。児童と地域がつながり，多様なかかわりの中での学びが成立したといえるでしょう。

活動のまとめ

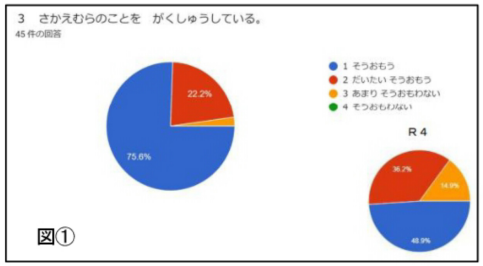
地域とつながり，多様なかかわりを生み出そうと，学校と地域の連携・協働を推進してきました。

取組は大きく二つです。一つは，村ＣＳ小学校部会を中心とした，いっしょに学ぼう，いっしょに遊ぼうにおける児童と地域住民の共学び，共遊びの活動。もう一つは，児童と地域住民による協働のふるさと学習です。

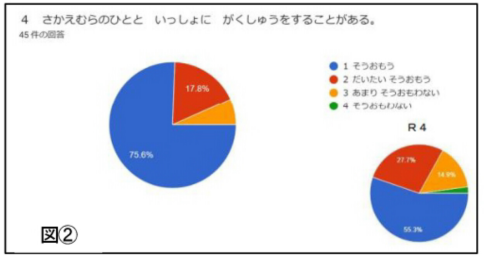
共学び，共遊びの活動では，児童と地域住民が同じ学習者・活動者として，学び・遊びの中で対等・並立の関係でかかわり合う姿がありました。これは，少人数で人間関係が固定化し，多様な見方や考え方に触れにくいといった学校の課題解決に迫る取組であったように思われます。児童からはコミュニケーションの喜び，充実を語る言葉が聞かれました。地域住民からも，児童とかかわる喜び，学び合う楽しさについて言及があり，これは学校教育への参画や生涯学習へつながるものと考えられます。

ふるさと学習においては，子どもが願いをもって活動し，地域のひと，もの，ことに出会う姿が見られました。協働で取り組む地域の人に，児童は感謝の気持ちを持ちかかわりを深めました。地域住民には，探究する子どもの姿を喜び，共に活動してもらいました。

図①は今年度の学校評価アンケート「栄村のことを学習している」の児童の回答結果です。プラス評価が約９７パーセントとなっている。図②は，同じく学校評価アンケート「栄村の人といっしょに学習をすることがある」の児童の回答結果です。「そう思う」の高評価が昨年度の約５５パーセントから約７６パーセントへと大きく増えています。児童自身が地域との連携・協働について評価を高めており，今年度の取組の成果といえます。



図①



図②

おわりに

学校と地域の連携・協働の取組において，児童には地域住民や地域素材とのかかわりや出会いが生まれました。取組を振り返ると，児童と地域住民に名前で呼び合う関係が生まれるなど，物理的・心理的に距離が縮まった様子があります。また，村ＣＳ小学校部会を中心に，学校職員と地域住民のかかわりも深まり，コミュニケーションを取りながら「こんなことをやってみたい」「あんなことができそうだ」といった会話が交わされるようになりました。児童と地域住民，学校と地域に相手の顔が見えるコミュニケーションの形ができてきているように感じられます。

栄小学校の学校と地域の連携・協働は，かかわる人の理念の共有，互いの尊重を基調に，並列・対等な関係性を持って取組が進められました。今年度の活動を基に，栄村コミュニティスクール小学校部会を継続・発展させ，持続的な取組を進めていくことが求められるでしょう。学校と地域の対話により，かかわる人の思いを共有し前進していきたいと考えます。